



第V部

保育園・幼稚園・認定
こども園と小学校との連携



第Ⅴ部 保育園・幼稚園・認定こども園と小学校との連携

1 子どもの発達と学びをつなぐ園と小の連携

(1) 5歳児の発達段階と特徴

5歳児は、身体の成長面からみて、成人の形態に近づき、その成長の速度は今までに比べて、ゆっくりとなってきました。下半身の成長が上半身に追いついてくる時期でもあり、体形的に「小さな成人」と言えるほどになります。それに伴い、平衡感覚がかなり発達してきます。運動機能も、ホップ、スキップ、ジャンプをすることが上達し、多様な動きができるようになります。また、音楽に合わせてリズムをとったり、踊ったり、ボール遊びができるようになる等、視覚的、聴覚的に捉えた情報を、手足を中心とした体全体で表現できるようになってきます。更に、手先の動きも繊細さを増し、箸や鉛筆、筆、クレパス等も上手に使えるようになり、紐を結ぶことや絵を描く技術も高まります。

生活面では、衣服の着脱や洗顔、歯磨き、排泄等がほぼできるようになり、家事の手伝いや当番活動等、仕事への参加意識も高まります。これによって、自己有用感、達成感、所属感が強くなります。進んで手伝いをすることができるようになり、生活の中で自信を高め、信頼を獲得するようになります。遊びも、より複雑なルールや協調性、共同性が必要なごっこ遊びを好むようになり、友達の要求を理解したり、自分の気持ちや考えを伝えたりする必要性を強く認識するようになります。人と関わりながら考えを深めていく、友達と共有しながら活動を広げていくという、人と関わる力が伸び、考えを深める過程が人間関係の中で行われていきます。このような、友達との関わりを通して、きまりや約束を守ること、他者への思いやりの心も育ちます。

(2) 学びをつなぐ園・小の教育

子ども達は、地域に見守られ、地域との交流をとおして豊かな体験を得ながら、就学前から小学校・中学校へと育っていきます。

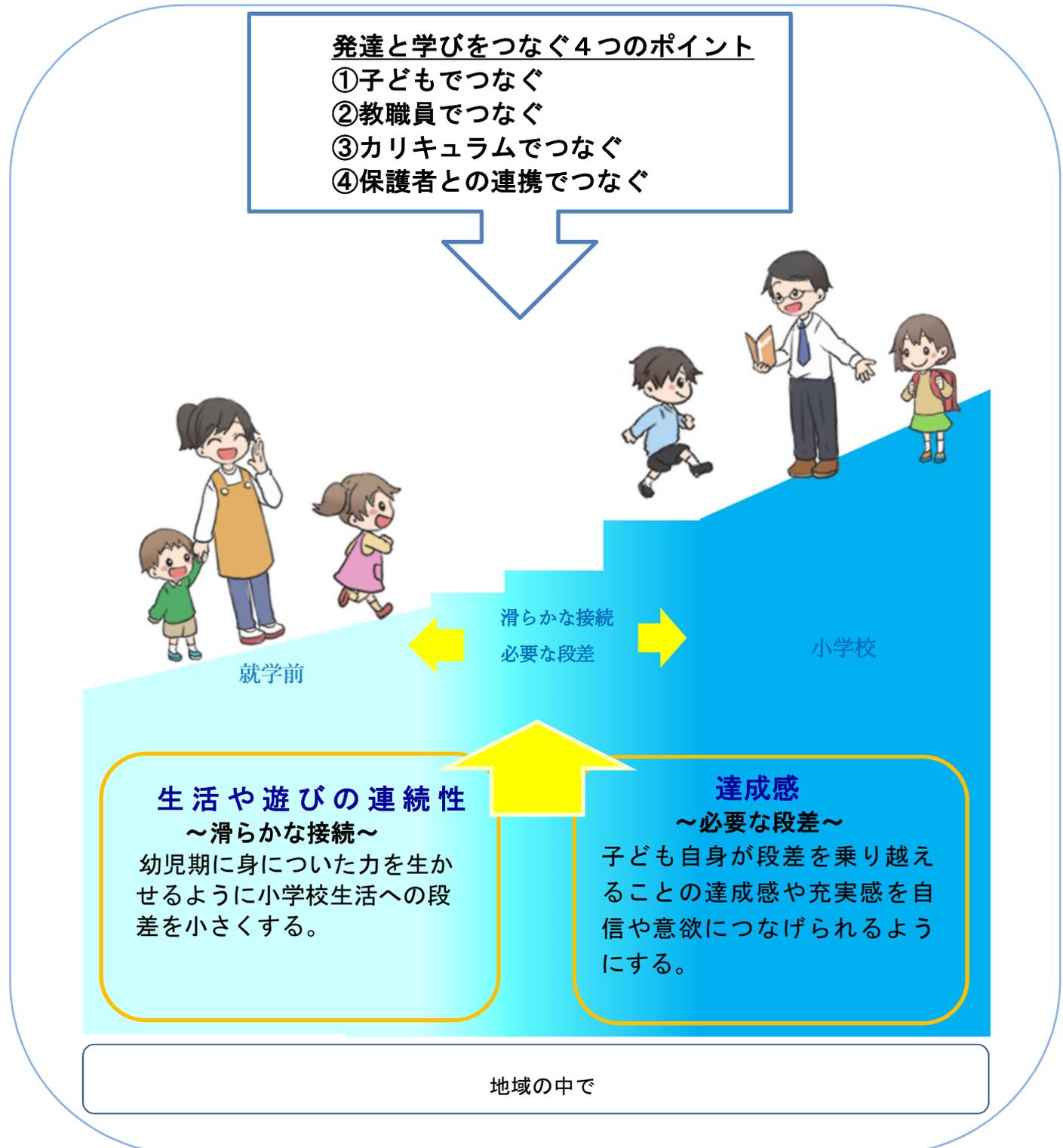
特に園と小学校との連携については、保育所保育指針・幼稚園教育要領においても、小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会等を設け、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有する等連携を図り、幼児教育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努めるものとする示されており、小学校学習指導要領においても幼児期において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、総則や生活科の中にスタートカリキュラムに関する記述が盛り込まれています。

幼児期において、自発的な活動である遊びを通して育まれてきた、気付きから探求へという学びの過程は、小学校以降の学習意欲へとつながり、主体的に課題に取り組み解決していこうとする態度を育てることにつながります。こうした幼児期から児童期への学びの連続性の保障のためには、接続期の保育・教育において「つながる」ことが重要です。

幼児教育と小学校教育のそれぞれのよさや特性を互いに尊重し、子ども達一人一人の成長をしっかりと支えていくためには、保育・教育に携わるすべての人々が、本市の幼児教育が目指している方向性についての理解を深めていくことが必要です。

2 浦安市の幼保小連携教育の考え方

様々な体験や遊びを通して得る学びの土台となる幼児期から、教科学習中心となる児童期以降の教育において、互いの違いを理解した上で円滑な接続をし、教育を進めていくことが重要です。



3 子どもの発達と学びをつなぐ「4つのポイント」

浦安市では、子ども達の学びと育ちをつなげていくために「4つのポイント」を設定しています。それぞれに「～でつなぐ」という視点のもと、中学校区の実態に合わせて様々な実践に取り組んできました。



ここでは、それぞれの具体的な取組例を紹介します。

具体的な取り組み

(1) 子どもでつなぐ

「小学生のお兄さん・お姉さんと遊ぼう！ ～年長児と5年生の交流～」

取組の目的：

- ＜保育園・幼稚園・認定こども園＞
 - ・5年生との交流を通して、小学生への憧れの気持ちをもつ。
- ＜小学校＞
 - ・園児との交流を通じて、自己の成長を実感し、人に対する思いやりの気持ちを育む。

内容：

- ・互いの自己紹介カード等を交換し、相手に親しみを感じられるようにする。
- ・小学校の校庭や体育館で、ドッジボールやサッカーをしたり、室内でカルタやすごろく作りをしたりする。



ボールがきたら、素早くよけるといいよ！



代わりに書いてあげるね。



お兄ちゃんは上手だなあ



ゆっくり読んであげたほうが、わかりやすいかな



お姉ちゃんって、字もきれい。何でもできて、かっこいい。

園から見た成果

- ・学校の雰囲気や広さを実際に体験し、小学校生活への期待が膨らんだ。
- ・5年生の優しさやたくましさを感じ、小学生への憧れの気持ちが芽生えた。

小学校から見た成果

- ・自分たちが役に立ったという達成感を味わうことができ、自己肯定感や最高学年への意識の高まりが見られた。
- ・進級への期待が膨らみ、低学年への思いやりの気持ちにつながった。

(2) 教職員でつなぐ

「 浦安市教育委員会幼稚園・認定こども園訪問・小学校参観 等の実践 」

取組の目的：

- ・教育委員会訪問や公開研究会を実施し、園・小・中学校教職員の指導力向上を目指す。
- ・保育参観、授業参観を実施し、教職員間の保育・教育に関する相互理解を深める。

内容：

- ・教育委員会職員、健康こども部職員が保育・授業を参観し、指導助言を行う。
- ・他園・他校の教職員が参観し、保育・授業について協議する。

→<学級のみんがが集まって相談中>
幼児の言葉に参観者も聞き耳を立て、幼児が獲得している力を捉えていきます。



↓<協議の時間>

保育参観の感想、評価や課題について、互いの意見を出し合う中で、幼児理解や教師の役割について考えます。他者の意見や参観の視点が、保育者や教師の新たな気付きとなります。



←<遊んだ後の振り返りの場面>
子ども達の感想やアイデアを、明日の遊びにつなげていきます。

園から見た成果

- ・保育参観をすることで、自分の保育を振り返り、環境構成や指導の参考になった。
- ・授業参観では、授業のねらいに向かって、学級の友達と共に考え、教師の投げかけを理解して学ぶ姿に子ども達の成長を感じた。園生活の学びがどんな力になるのか考える機会となった。

小学校から見た成果

- ・保育参観をすることで、園での生活や遊びの中で、どんな力が育っているのかを知ることができた。
- ・年長児にはできることがたくさんあることが分かり、必要以上に幼く扱っていることはないかと気付かされた。
- ・小学校の学習とのつながりを感じる機会となった。

浦安市では、教育委員会と健康こども部保育幼稚園課が公立の保育園・幼稚園・認定こども園を訪問します。当日は行政職員だけでなく、他園・他校の職員にも保育を公開しており、幼児教育の理解の推進につながっています。また、午後には参観者を含めた話し合いの機会をもつことで、幼児理解や保育の資質向上と保育内容の充実を図っています。

この他、日頃から中学校区ごとで、教職員による保育・授業参観を実施しています。参観週間期間を設定したり、参観後の話し合いを取り入れたりするなど、設定方法を工夫し、相互理解が更に深まるよう連携を進めています。

(3) カリキュラムでつなぐ

「 各中学校区におけるグランドデザインの策定と活用 」

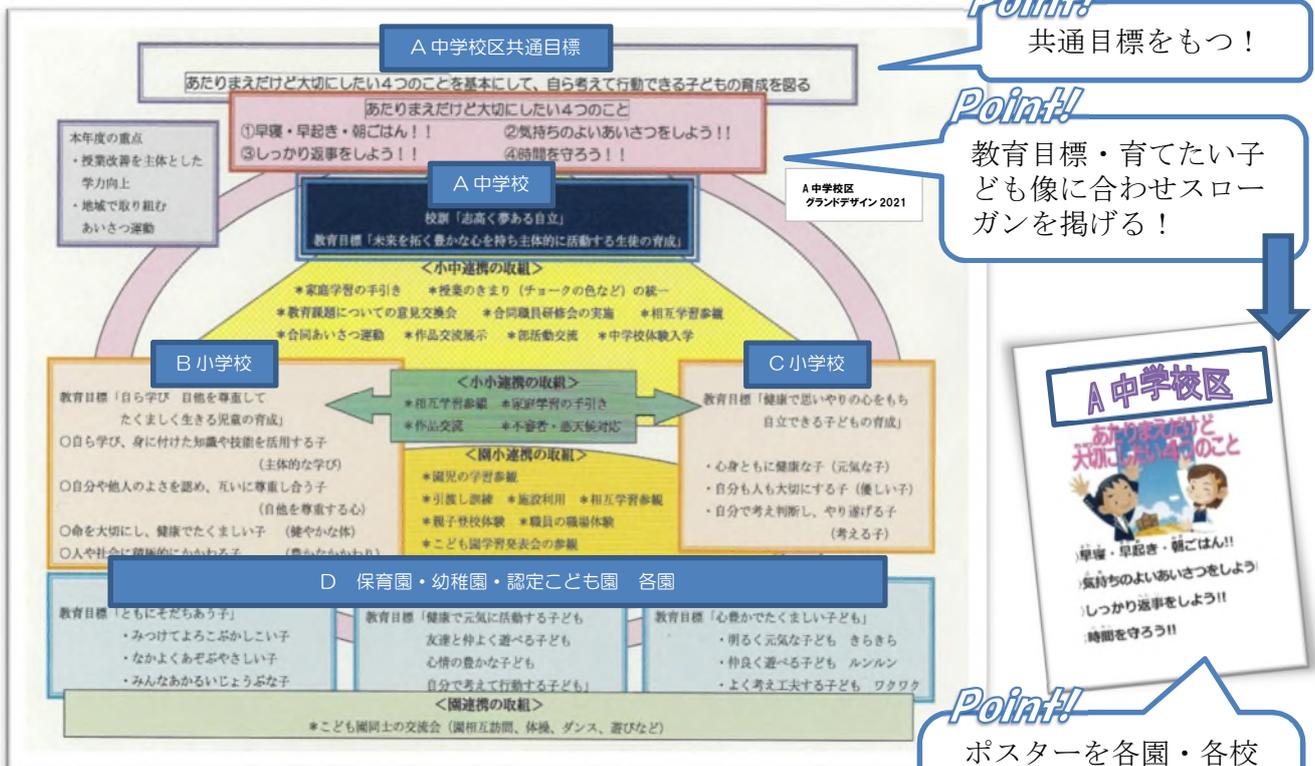
取組の目的：

中学校区のグランドデザインを共有することで、お互いの保育・教育目標を確認し合うと共に、地域の子ども達を同じ方向性で共に育てていく。

内容：

- ・市内9中学校区全てにおいて、実態に合わせグランドデザインを策定する。
- ・グランドデザインの中で、園・小学校・中学校で、共通の育てたい子ども像・教育目標を掲げる。
- ・共通の教育目標に向かい各園・各校の特色を生かし教育活動を進める。また、経過や成果を共有し連携する。

グランドデザインとその活用例 ～A 中学校区の場合～



中学校区毎に毎年開催している「園・小・中連携の日」等の場を活用し、教職員同士が教育目標に向かう取組内容や成果、今後の課題等について共有しています。

ポスターを各園・各校に掲示。学校・地域・家庭が一体となり取り組めるようにする。

園・小学校から見た成果

- ・就学前から義務教育までの9年間を見通した教育の中で、園や小学校としてできることを考え、保育・教育に反映することができた。
- ・分かりやすいスローガンやポスターが作成されたことで、教育目標を周知しやすく、職員だけでなく、子ども、保護者も意識することができた。

(4) 保護者との連携でつなぐ

「園の保護者会に、小学校職員が参加」

取組の目的：

<保護者>

小学校や新1年生の生活の様子を知り、不安や疑問の解消につなげる。

<小学校>

- ・入学前に家庭で取り組んでほしいことを伝える。
- ・保護者が抱えている不安を知り、今後の対応に生かす。

内容：

年中・年長児クラスの保護者を対象に、学区内の小学校職員（校長・教頭・教務主任等）より小学校入学についてのお話を聞く。



<保護者に配布した資料の一部>

小学校の先生に聞きました！
1年生にはこんなことを教えています。

道具の出し入れを教えます。
配付物が保護者の方に
確実に届くようにします。

トイレの使い方を
教えます。拭き方が
難しいようです。

楽しく学ぶために話の聞き
方、座る姿勢、立つ姿勢を
教えます。
また、「ハイ！」と手をあげ
ることが楽しくなるような
指導を心がけています。

友だちとなかよくできる
ように子どもたちのよい
ところを見つけ言葉かけをし、友だちに対して
前向きになれるようにし
ます。

3 困ったことがあったときは・・・

- ・わからないことや気になることがあったらまず、学級担任に相談してください。
- ・学級担任だけでなく学年職員、養護教諭、スクールライフカウンセラー等、学校の教職員全員で支援しています。
- ・児童育成クラブやはっぴひろば（放課後異年齢教室）の職員とも連絡を取り合い、連携を図っています。
- ・園と小のスムーズなつながりを意識し、様々な取り組みをおこなっています。
- ・学校以外にも様々な支援の組織があるので遠慮なく声をかけてください。

就学に向けて家庭で取り組んで欲しいことについての話を聞き、最後に質疑応答を行いました。

（質問）まだ平仮名が書けません。入学前に練習した方がよいですか？

（答え）入学してから鉛筆の持ち方や平仮名の書き順を学びます。まずは家庭で姿勢よく椅子に座ることや、しっかりと話を聞く習慣を身に付けてください。

園から見た成果

- ・直接話を聞くことで、学校や職員への親近感が沸いた。また、具体的な小学校生活のイメージが浮かび、我が子の新しい生活への安心感につながった。
- ・園の職員も同席し、就学に向けた具体的な取組を学ぶことができた。

小学校から見た成果

- ・入学前の保護者が、どのような疑問や不安を持っているかを、捉えることができた。
- ・就学前に家庭で取り組んでほしいことを、事前に伝えることができた。

(番外編) コロナ禍でも、できたこと ～新たな工夫と気付き～

コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、従来通りの園と学校の交流活動の実施が難しい状況となりました。しかし、子ども達が人との関わりを通して得る学びを継続できるよう「可能な方法」を模索し、新しい工夫や取組が生まれました。

1 小学校見学 ー小学校職員が撮影した校舎内の写真や動画を観るー



小学校って、いろいろな部屋があるんだね。

例年は、「小学校見学」として、上級生に学校の中を案内してもらっていました。一緒に校内を歩き、直接校舎を見学することはできませんでしたが、小学校の先生が撮影したビデオを観ながら学校見学の雰囲気を味わいました。また、自分たちのためにビデオを撮影してくださった、先生方の思いも受け止めた子ども達でした。

2 園児と児童との交流活動 ーメッセージのやり取りをするー

小学校で待っているよ！
一緒に遊ぼうね！



お手紙うれしいな。
お返事を書こう！

←自分の顔を描いてお礼のお返事を送りました。

直接の交流活動ができない代わりに、手紙で気持ちを伝え合いました。

3 教頭先生による模擬授業体験 ー保育室にてー



手を挙げるときは、指の先まで伸ばすんだね。なんだかわくわくする。小学校楽しみな。

例年は、小学校1年生の教室で体験していた活動ですが、園内でも、小学校の先生の指導に小学生気分を味わいました。

4 幼児教育から小学校教育の「学び」のつながり

保育所保育指針、幼稚園教育要領では、幼児教育において育みたい資質・能力が育まれている幼児の具体的な姿として、特に5歳児後半に見られるようになる姿を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として明記されています。園では、各保育者がこの姿を念頭に置いて、幼児教育に取り組んでいます。

《幼児期の終わりまでに育ってほしい姿》

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり	思考力の芽生え
自然との関わり・生命尊重		数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚		言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

エピソード 「速く走らせた！」～製作活動～（年長児6月）

車遊びを楽しんでいたA男が、「先生、車長くしたいから、もう一つ牛乳パックちょうだい！」と言う。保育者が「どうして長くしたいの？」と聞くと、「だって速く走るんだもん！」と言う。それをそばで聞いていたB男が振り返り、「重いからじゃない？」と一言。A男とC男は「へえ～」という表情をして、車作りに励む。

しばらくするとC男が「もっとタイヤを増やしたい。強くしたいから！」と言い、黙々とタイヤを付け始める。牛乳パックを2つつなげた車に、10個以上のタイヤを付けて嬉しそうである。

しかし、いざ走らせてみると、タイヤが上手く回らない。車をひっくり返し、じっとタイヤを見つめ、やがてタイヤを外し始めた。「あれ？タイヤ、外しちゃうの？」と教師が聞くと、「タイヤ同士がぶつかって、上手く回らないから…」と言う。慎重にタイヤを外し、走行させ、またタイヤを外し…を繰り返す。タイヤが4個になったところで、車がスムーズに走るようになった。「先生、このタイヤ必要なかった！」と満足そうに報告した。



【実際の車遊びの様子】

このエピソードについて、保育者と小学校教員が、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、幼児が獲得している力について語り合い、学びの連続性を共有しました。



保育者A

車を長くするために、牛乳パックを保育者に要求する場面があります。年長組になると、自分の考えを実現させるために、必要なものや援助を言葉で要求できるようになってきます。



小学校教員A

小学校生活において、自分の要求を、自分の言葉で伝えられることは、とても大切な力です。幼児期の遊びや人との関わりの中で、その力が育まれていることが分かりました。



保育者B

幼児期の子ども達は、自分なりにイメージを広げて製作することが大好きです。エピソードのような場面は、どの園でも日常的に見られる場面です。このような遊びが、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や「小学校の学び」にどのようにつながっていくのでしょうか？



保育者 A

まず、園で好きな遊びを楽しむ中で、先生や友達に自分が思ったことや考えたことを言葉で表現し伝えることが、「言葉による伝え合い」の姿につながっていくのだと感じました。



小学校教員 B

保育者は、子ども達の考えていることを引き出したいと思い、「どうして長くしたいの？」と尋ねています。



小学校教員 B

なるほど。そのような保育者の意図的な言葉かけが「思考力の芽生え」につながるのだと思います。授業の発問と同じですね。



保育者 B

それからB男君の「重いからじゃない？」という言葉に、他の幼児が「へえ～」と感心する場面があります。B男君は「重たい車の方が速く走っていく」と思っている様子でした。保育者は、3人が、遊びの中で、試したり工夫したりすることを通して様々なことに気付いてほしいと考えています。



小学校教員 A

この姿は「数量・図形・標識や文字などへの関心・感覚」につながりますね。幼児教育の中で、「遊び」を通して学んだことが、小学校教育の基礎になっていくのですね。



保育者 B

タイヤをたくさん付けていくエピソードの中には、幼児の豊かな発想と、「速く走る車を作りたい」という思いに向かう試行錯誤の過程が見られます。こうした姿を大切にするためには、教師がすぐに答えや方法を教えるのではなく、「自分で試す」ための時間を保障することが大切だと考えています。



【じっとタイヤを見つめるC男】

幼児教育では、幼児の「気付き」を大切にしている。それが幼児教育の「学び」なのです。



小学校教員 A

このエピソードからは、C男君が集中し、夢中になって取り組む姿が読み取れます。自分の力で考え、諦めずにやり遂げようとする姿には、「自立心」の芽生えを感じます。



小学校教員 A

十分な時間と場を保障することで、幼児のもっている「豊かな感性と表現」が発揮されると考えています。



保育者 B

「遊びに使うものを工夫してつくることができる」こと、「その面白さや不思議さに気付く」ことは、小学校生活科の学習指導要領（生活科）の目標や内容にもつながっていきます。幼児期にじっくりと好きな遊びに取り組んだ充実感や満足感が、学習に向かう意欲や集中力につながるのだと分かりました。



小学校教員 B

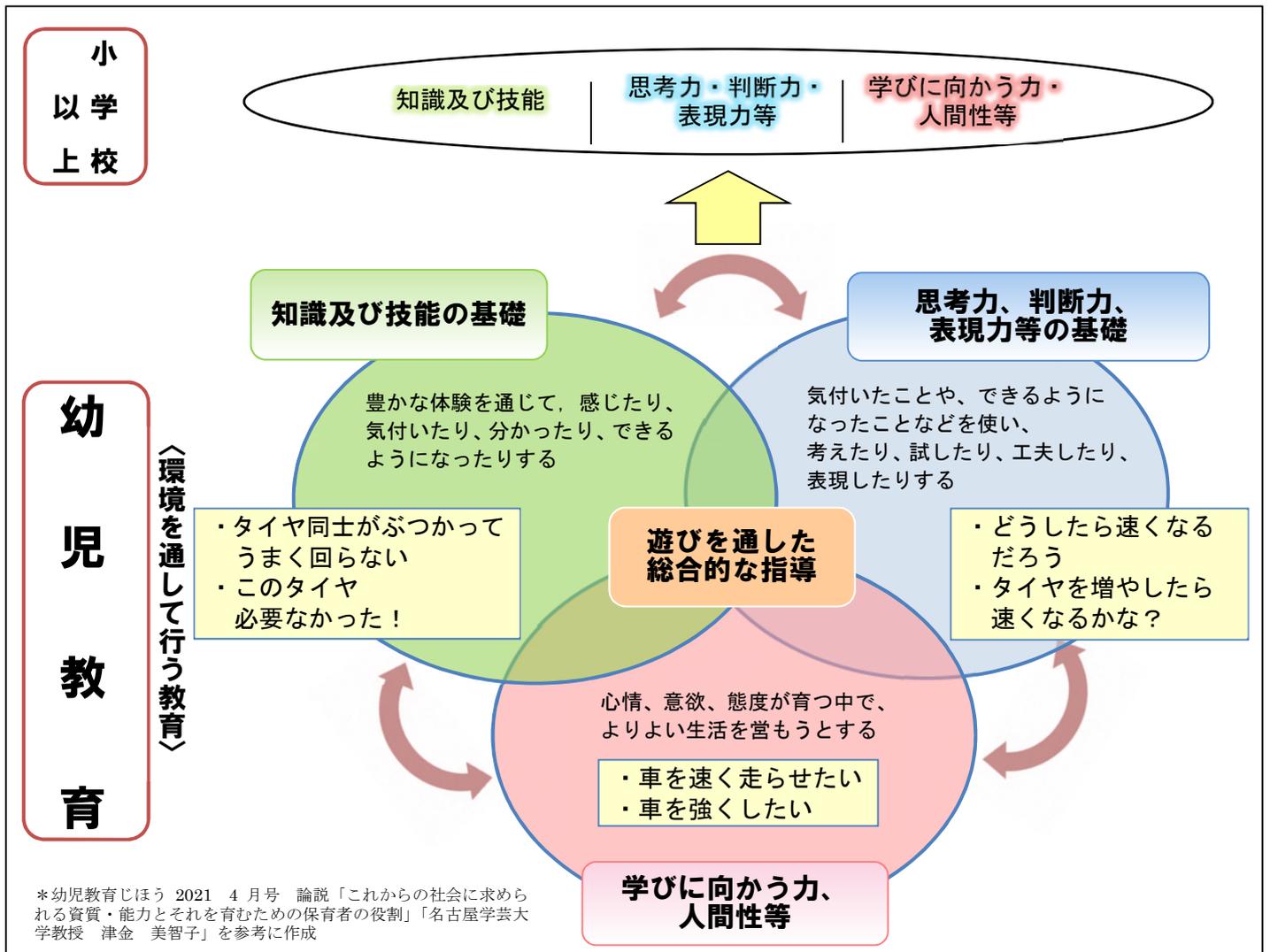
幼児期の、遊びを通した豊かな経験が、小学校の学びにつながっていくのです。



保育者 A

イラスト 村上 めい

エピソードの姿を「学校教育において育成すべき資質・能力」における「幼児期に育みたい資質・能力」の視点から捉え、図に示しました。幼児期に育みたい資質・能力は、小学校以降のようないわゆる教科指導で育むのではなく、幼児の自発的な活動である遊びや生活の中で、感性を働かせ、よさや美しさを感じ取ったり、不思議さに気付いたり、できるようになったことなどを使いながら、試したり、いろいろな方法を工夫したりすることなどを通じて育みます。

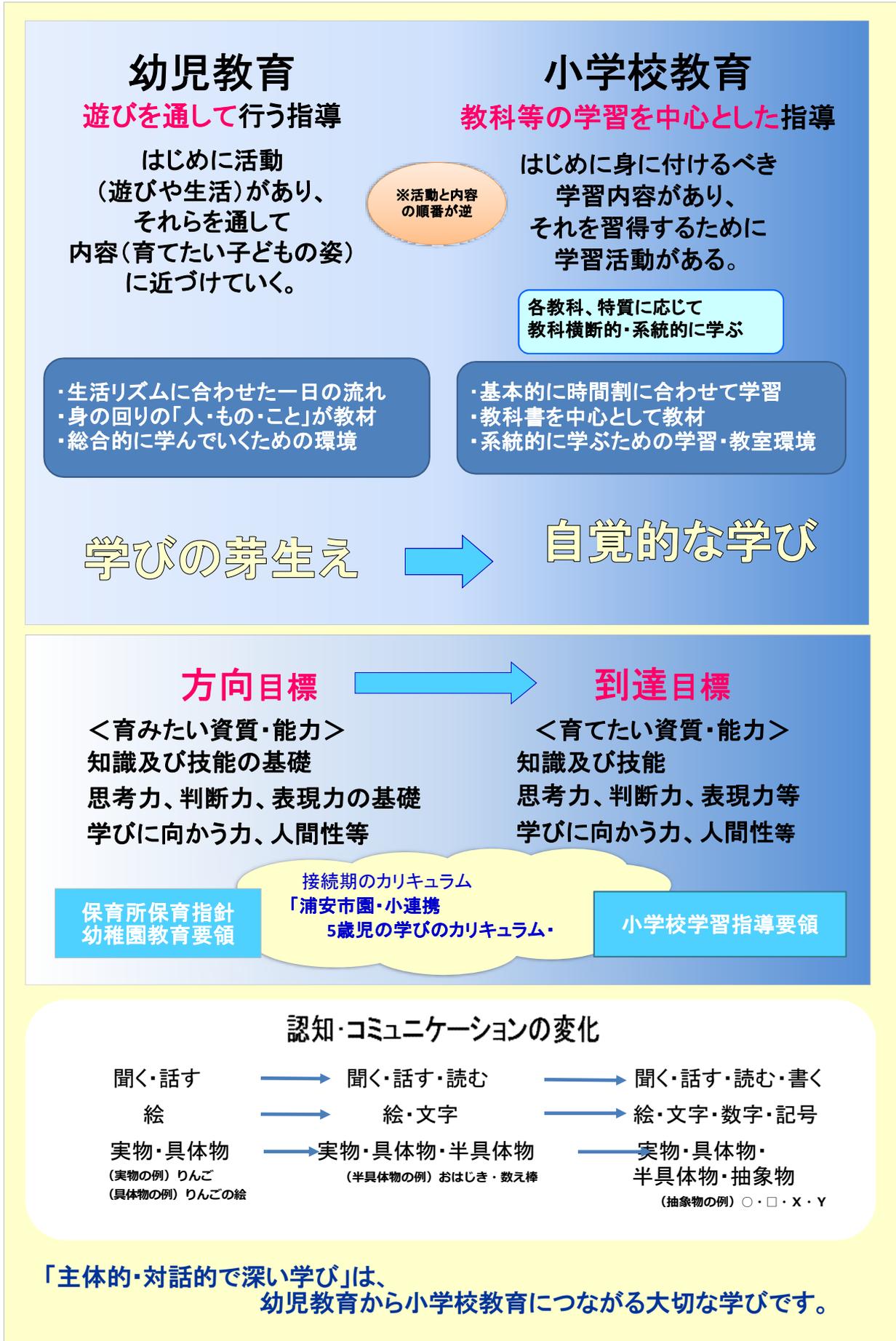


ここで、遊び込む原動力となっているのは「速く走る車を作りたい」という幼児の意欲や主体的な態度、つまり「**学びに向かう力、人間性等**」の資質・能力です。

この遊びへの強い思い入れがあるからこそ、その後の、牛乳パックやタイヤを増やしても思うようにならなかった時の新たな気付き、友達の考えや試行錯誤の中から新たな考えやよりよい考えを紡ぎ出す喜びや楽しさなど、様々な感情が生み出され、「**思考力、判断力、表現力等の基礎**」が育まれます。それを繰り返す中で、幼児なりにタイヤの数や付ける位置と走る速さの関係に気付くなど「**知識及び技能の基礎**」となっていきます。そして、分かったことを生かしたくなり、さらに次の遊びの動機付けへとつながっていきます。

これらの資質・能力は、個別に取り出して身に付けさせるものではなく、遊びを通した総合的な指導を行う中で、一体的に育んでいくことが重要です。

5 幼児教育と小学校教育のつながりと違い



他にも、園生活から小学校生活へいろいろなことがつながっています。



< 身の回りの整理整頓をする ～自分のものをしまふ場所を覚えよう～ >



< 3歳児 >

< 4歳児 >

< 5歳児 >

< 小学校1年生 >

タオル掛け、靴箱、ロッカーなど様々な「自分の場所」に、目印としてマーク（イラストシール）が付いています。個人のマークがあることで、文字が読めなくても、自分の場所が明確になります。「マークのみ」「マークと氏名」「氏名のみ」等、発達段階に応じて工夫しています。

持ち物の整理整頓は、園生活の積み重ねが生かされています。

< 身の回りの整理整頓をする ～自分のものはきちんとしまおう～ >



< ロッカーの個人用引き出しの中 >

自分のクレヨンやハサミ等は、ロッカーの自分の引き出しに入れて管理します。

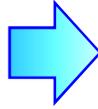


< 自分の机の引き出しの中 >

必要なものが直ぐに取り出せるように工具箱を机の引き出しに入れてあります。自分で準備・管理するものが増えます。

※自分の持ち物である道具や皆で共有する物を整理整頓することは、小学校での生活習慣や学びへの意欲や意識、学習規律の習得につながっていきます。

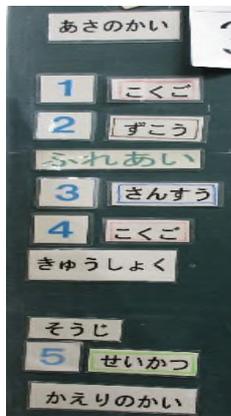
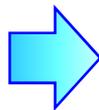
< 見通しをもって生活する ~日付を知る~ >



黒板には、その日の日付や日直が書かれています。

日めくりカード等を用いて、子ども達が生活の中で、日にちや曜日を知ることができるようにしています。

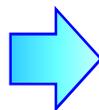
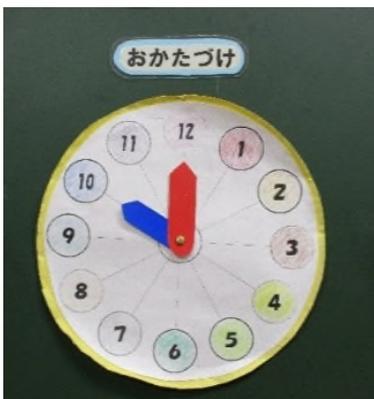
< 見通しをもって生活する ~一日の流れを知る~ >



その日一日の流れを、文字に絵や写真を添えて知らせています。

時間割は、教科ごとに色分けされ、わかりやすくになっています。

< 見通しをもって生活する ~時間を知る~ >

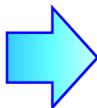


片付けやごちそうさまなどの時間を、事前に知らせておくことで、気持ちを切り替え、次の活動にスムーズに移行できるよう配慮しています。

学校の授業時間は、1時限 45 分間です。子ども達は、チャイムを聞いたり、時計の針を見たりして行動します

※月日や曜日、時間、そして一日の予定等、生活の流れを意識するきっかけを作っていくことは、見通しをもって行動する力につながっていきます。

< 約束事 ～学級のルールを共有する～ >

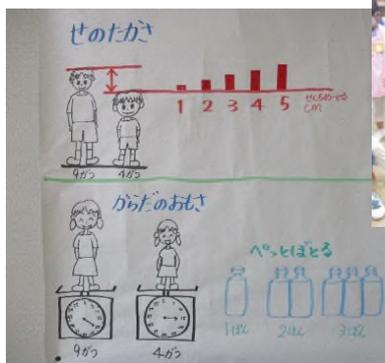


<約束事は、廊下側の壁に掲示されています>

<よい姿勢で話を聞こう>
椅子や床等に座って活動する際には、正しい姿勢を意識できるよう言葉かけをしています。

園生活の積み重ねや体力の向上によって、授業中の姿勢も保たれています。学校では、学級でのルールは、掲示物などを通して周知したり意識づけたりしていきます。

< 実感を伴う体験を通した学びから抽象的な学びへ >



<「2キロ重くなったよ。2キロってこれくらい?>

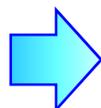


<算数セットを使った学習>

見て触れて感じて、直接体験を通した気付きや学びを大切にしています。

授業の中では、抽象物を使って考える経験も始まります。

< 園と学校で同じ経験 ～新たな学びの視点の獲得へ～ >



<育てたふうせんかずらをとって遊ぶ子ども達>

自分たちが植えた花の芽が大きくなる喜びや実をつける不思議をたくさん味わっていきます。

<生活科の授業のひとコマ>

植物の観察日記をつけ、日々の変化に注目する等、新たな視点を持ち、様々な気付きを獲得していきます。

令和2年度「浦安市学校教育推進計画」前期に基づく 幼児期から小学校への学びと育ちを豊かにつなぐための

浦安市園・小連携

5歳児の学びのカリキュラム・ スタートカリキュラム

幼稚園・認定こども園・保育園・小学校

本市では、幼稚園教育要領、保育所保育指針、小学校学習指導要領の実施を通して、園と小学校との円滑な接続を図っています。さらに円滑な接続を図るためには、子どもや教員の交流のみならず、教育課程の接続を十分に行うことが必要であると考えます。

浦安市学校教育推進計画の具体的施策として、「園・小中連携・一貫教育」を推進しています。就学前の「遊びを通して学ぶ幼児期の教育活動」から、小学校の「教科学習が中心の小学校以降の教育活動」への円滑な移行のために、園と小学校が互いの理解を一層深め、双方の質の向上を目指します。

そこで、子ども自身の生活や育ち、社会の変化、今日的な課題からも園・小学校が連携していくことの重要性を職員が再認識できるよう、このリーフレットを作成しました。各園・各小学校の実態に応じて、指導の一貫性・連続性をより高めたカリキュラムを作成するためにこのリーフレットをご活用ください。

令和4年2月
浦安市教育委員会





0 歳

就学前（保育園・幼稚園・認定こども園）



3 歳

6 歳

期待

不安

安

浦安市就学前「保育・教育」指針
いきいき☆浦安っ子

接続期 （5歳児10月）

浦安市園・

5 歳児の学びのカリキュ

『学びの芽生え』・学ぶということを意識して行うのではなく楽しいことや好きなことに、夢中になって取り組むことを通して様々なことを学んでいく

配慮事項

- ・小学校の学びを前倒しするのではなく、「やりたい、伝えたい」という気持ちが高まるような教育・保育の工夫をします
- ・「遊び込む・夢中になる」体験を充実させ、自分の気持ちや行動を調整する力を養います

【5 領域】

遊びを通しての総合的な指導

健康

人間関係

環境

言葉

表現

幼児期の終わりまでに育てたい姿

- ①健康な心と体
- ②自立心
- ③協同性
- ④道徳性・規範意識の芽生え
- ⑤社会生活との関わり
- ⑥思考力の芽生え
- ⑦自然との関わり・生命尊重
- ⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- ⑨言葉による伝え合い
- ⑩豊かな感性と表現

※実際の指導では、「幼児期の終わりまでに育てたい姿」が到達目標でないことや、個別に取り出されるものではないことに十分留意する必要がある。

育ち・学びを伝える力
非認知能力スキル

資質・能力

知識及び技能の基礎

遊びや生活の豊かな体験を通じて、何を感じたり何がわかったり、何ができるようになるか

思考力、判断力、表現力等の基礎

遊びや生活の中で、気付いたこと、できるようになったことも使いながら、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか

学びに向かう力・人間性等

心情、意欲、態度が育つ中で、いかにより良い生活を営むか

幼児教育（経験カリキュラム）

一貫性

7歳

小学校



15歳

中学校

心

成長

自立

～ 小学1年4・5月)

小連携

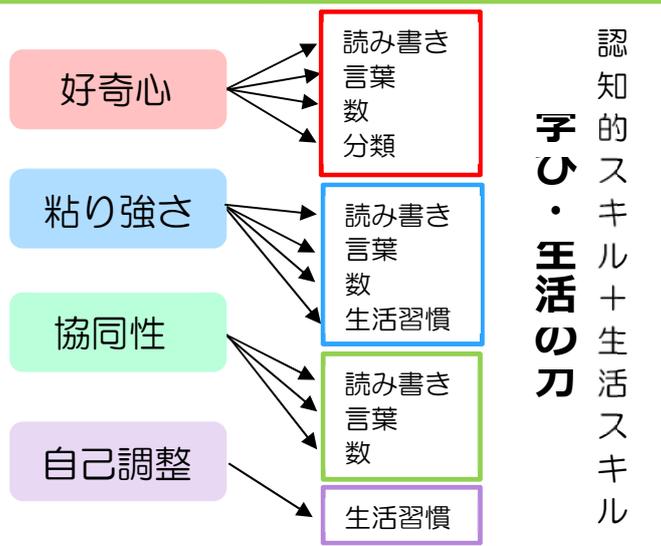
ラム・スタートカリキュラム

浦安市小中連携・一貫カリキュラム指針

『学びの芽生え』・学ぶということに意識があり、集中する時間と休息等の区別がつき計画的に学びを進める

配慮事項

- ・幼児期に培った力を基礎として、学習中心の生活につなげていくよう指導内容や指導方法を工夫します
- ・安心して学べる環境を整え、個に寄り添いながら「学校って楽しいな、明日は何をやるのかな」という意欲や自信を養い、学びの動機付けを図ります



【各教科等】

生活科を中心とした合科的・関連的な指導



学びに向かう力、人間性等

どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか

知識及び技能

何を知っているか、何ができるか

思考力・判断力、表現力等

理解していること、できることをどう使うか

小学校教育（教科カリキュラム）

的 で 深 い 学 び

【10月～12月（小学校に期待感を高める時期）】

【1月～3月

（就学に期待を高め、進学することを意識する時期）】

○規則正しい生活ができる。

○自分のことは自分でできる。

- ・危険な場所が分かり安全に気を付けて行動する。
- ・健康な生活や病気の予防に関心を持ち、意識して行動する。
- ・自分の所持品の整理や脱いだ服の始末を進んで行う。
- ・園や学級のものも自分のものと同じように片付ける。
- ・生活に必要な活動を自分から進んで行う。
- ・先を見通したり、時間を意識したりしながら友達と声を掛け合って生活する。
- ・困ったときは自分で考えたり、周りの人に聞いたりする。
- ・共同で使う遊具を大切に使う。

- ・危険な遊び方や場所に気付き、自分で判断して安全に行動しようとする。
- ・健康な生活に興味を持ち、生活に必要な習慣やリズムを身に付ける。
（※ハンカチの使用、午睡なしでの生活への切替）
- ・活動の区切りや時間（時計）を意識しながら生活する。
- ・就学への期待を持ち、自信をもって行動する。
- ・友達とルールを考えながら、体を動かす遊びに十分に取組む。
- ・自分の遊びや生活の場を整えようとする。
- ・自分たちの活動を振り返りながら、当番の仕事の引き継ぎをする。

○思いや考えを言葉で伝えることができる。

○きまりや約束を守ることができる。

- ・生活の場に応じた言葉の使い方や表現の仕方が分かる。
- ・自分の経験したことや考えたことを相手に分かるように話す。
- ・友達の話をよく聞き、遊びのイメージを共有しながら、自分たちで遊びを進めていく。
- ・友達とのかかわりや生活を通して、きまりの必要性や大切さが分かる。
- ・物事のよし悪しを自分で考えて行動し、問題が生じたときは自分たちで解決しようとする。
- ・友達と役割を分担したり、交代したりしながら、遊ぶ楽しさを味わう。
- ・活動に合わせてルールを考えたり、工夫したりしながら遊ぶ。
- ・遊びを楽しむ中で互いの良さを認め合う。
- ・地域の人や高齢者、異年齢の子どもとふれあい、人の役に立つ喜びを味わう。

- ・大勢の友達と目的を共有し、実現するために、保育者や友達と相談しながら見通しをもって遊びを進める。
- ・目的に向かって課題に根気強く取り組んだり、工夫したりして、やり遂げた喜びや充実感を味わう。
- ・共通の課題に向けて挑戦したり、話し合ったり、役割を分担したりして、目的を果たす喜びを味わう。
- ・学級全体で一つの活動などに取り組んだり、共通のイメージをもってそれぞれの遊びをつなげたりする。
- ・友達とのかかわりを深め、思いやりをもつ。

○様々な遊びや体験をする（体を動かす・自然とふれあう等）。

○文字や数に興味をもつ。

- ・身近な環境に積極的にかかわり、生活の中に取り入れたり物の仕組みに関心をもって使ったりし、生活を豊かにする。
- ・飼育動物や昆虫等の世話を通して、生態や飼い方に興味をもつ。（絵本・図鑑・事典などを活用する）
- ・遊びの中で使う物の数や人の数を考えたり、数の多少を比べたりする。
（リレーやドッジボールのチーム分けやゲームの勝敗等）
- ・遊びの中で文字や数字、絵文字等に興味を持ち、読んだり遊びに取り入れたりする。
- ・友達と一緒にリズムカルな動きを楽しむ。
- ・物語や話の続きに興味を持ち、クラスの友達と楽しんで聞く。（長編の物語の読み聞かせ）
- ・絵本や物語に親しみ、イメージを豊かにし、演じたり、イメージを膨らませたりして遊ぶ。
（劇遊びのストーリーを作ったり、動きを考えたりする）。

- ・季節の移り変わりとともに生活にも変化があることを知る。
- ・冬の自然現象に興味を持ち、見たり試したりする。
- ・生活の中で数や文字の必要性や便利さに気付き、書いたり読んだり、比べたり、分けたりする。
- ・就学することを喜び、自分の成長に自信と自覚をもつとともに、身近な人に感謝の気持ちをもつ。
- ・考えたこと、感じたことをいろいろな方法で表現する。



【幼児期の経験を生かして育てていく時期】

健やかな体

【体】

○自分のことが自分でできる。自分でできることを増やす。

- ・決められた通学路を通して登下校をする。
- ・朝、授業、帰りの支度をひとりでする。提出物を出す。
- ・学校の決まりや時間を守る。
- ・時と場に応じた挨拶や返事をする。
- ・場に応じた整列の仕方を覚え、静かに待ったり、順番を守ったりする。
- ・場に応じて必要な我慢をする。
- ・自分の体の具合など、自分で話す。
- ・机の中やロッカーの中の整頓をする。
- ・自分の持ち物やみんなが使うものを大切に扱う。
- ・食事のマナーを守り、給食を楽しむ。



<生活の中で>

○クラスのことをみんなでできる。友達との活動を楽しむことができる。

- ・男女を問わず、友達と遊んだり、活動したりする。
- ・「一緒に」や「ありがとう」などふわふわ言葉を使う。
- ・「ごめんなさい」が素直に言える。
- ・上級生（主に2年生や6年生）とかかわりをもつ。
- ・係や当番活動に協力して取り組む。
- ・給食の時間を友達と楽しむ。



<学習の中で>

○学校生活にかかわる人・場所・物に関心を持ち、学習に取り組むことができる。

- ・「学校探検」等で校内の様子に慣れるとともに使い方のルールを知り、友達や先生と学ぶ楽しさを味わう。
- ・校内の自然の観察やアサガオの栽培を通して、自然とのかかわりを楽しむ。
- ・友達の発表を聞き、感想や意見をもつ。
- ・図工等の作品作りを一緒に楽しんだり鑑賞しあったりする。
- ・音楽や体育、特別活動等のペアやグループ活動をしながら自分や友達の良さに気付く。

自他を尊重する心

【徳】

主体的な学び

【知】

○生き生きと学習することができる。

- ・話を最後まで聞く。
- ・鉛筆を正しく持ち、丁寧に書く。
- ・発表のルールを知り、手を挙げて発表をする。
- ・道具を安全に大切に扱う。
- ・自然とのふれあいを通して、季節を味わう。
- ・失敗をおそれずに挑戦し、最後までがんばる。
- ・自分の考えや思いをもち、相手にわかるように話したり絵などで表したりする。
- ・かけっこや鬼遊び・遊具遊び等で思い切り体を動かす。



※浦安市学校教育推進計画より

小学校 <スタートカリキュラム編成の手順>

- 1 幼児期の子どもの姿を**理解**する。——**園との連携**を図り、実態を把握する。
- 2 **期待する成長の姿**を具体的に話し合い、共有する。——学校・学年目標との連携を図る。
- 3 スタートカリキュラムを**編成**する。
 - ① 成長の姿（目標の姿）を**月**の単位で明らかにする。

<例>

以下の視点で学習を3類型に分類し、重点の置き方を考えて単元や学習活動を配列する。	成長の姿（目指す姿）	4月第1～2週	4月第3週～末頃	5月頃
	♡安心感・人間関係づくり	♡		
	◇合科的な学習	◇		
	☆教科等を中心とした学習	☆		

- ② 単元の構成を工夫し、配列する（授業時間45分の内容を分けて構成し、児童の実態に合わせた工夫なども取り入れ、授業時間に慣れていくようにする）。
- ③ 単元計画に基づいた学習活動を**週**の単位で計画する。

<例>

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
朝		<めあて> ○朝の支度の仕方を知る。困ったときは6年生に聞くことができる。 ○朝の会の進行に慣れる。			
1		道徳 ・よりよい学校生活 生活 ・校舎めぐり	学級活動 ・朝の過ごし方 ・廊下の歩き方 ・並び方 生活 ・校舎めぐり	国語 ・線のおけいこ ・自分の名前	国語 「なかよし」 ・ひらがなの練習 ・読み書き
2	入学式（行事） ・小学校の一員としての喜びを感じる。 ・教室や会場の環境を味わう。 学級活動 ・教室や座席・トイレの位置を知る。	国語 ・自分の紹介 音楽 「校歌を覚えよう」	算数 「かずとすうじ」 国語 ・鉛筆の持ち方 ・線のおけいこ	体育 ・体育着の着方 ・整列の仕方 ・準備運動の仕方 ・遊具遊び・鬼遊び 生活 「春の花を見つけよう」	発育測定（行事） ・発育測定を正しく受けよう
3	・担任の名前を知る。 ・友達を知る。 ・返事や挨拶の仕方を知る。	学級活動 ・下校の支度の仕方 ・下校の決まり	音楽 ・校歌の練習 道徳 ・礼儀「あいさつ」	図工 ・絵「自分の顔」	算数 「かずとすうじ」 学級活動 ・ふれあいゲーム

幼児期と小学校の学びをつなぐポイント

「子どもでつなぐ～場とともに～」

幼児が入学前に小学校の施設利用や、子ども同士がかかわる機会をつくるなどして交流を進めていきましょう。

園のねらい

- ・小学生への憧れや期待につながる活動。
- ・体験を通して、小学校生活を身近に感じられるようにする。
- ・幼児の気持ちに寄り添いながら、興味、関心が深まるように考え、交流する機会を楽しめるようにする。

学校のねらい

- ・自分たちの体験をもとに相手を考えて主体的に取り組む活動。
- ・園での経験を踏まえた活動内容や接し方になるようにする。
- ・1年生の学習活動を園児がイメージできるようにする。
- ・高学年児童には、園児が自分でできることは自分で行う活動になっているか、考えさせる。

次は図書室
に行くよ
本がいっぱい
あるよ

次はここ
に行くの？

おいしいね

おいしいものは
あったかな

どうやるの？

ここを折るよ
(5年生)

<給食体験>



<交流会>



<学校体験>

「教職員でつなぐ」

幼児期と小学校の教育を互いの職員が参観し子どもの様子を見ることは、学びをつなぐ中で大切なことです。互いの教育を知り、子どもの育ちを共有していきましょう。

園のねらい

- ・授業参観や交流活動を通して、小学校教科の中で取り組む学びを知る(理解を深める)。
- ・学校と共有できる環境等を取り入れていく。
- ・幼児の様子を就学前に伝え、スムーズに学校生活が送れるように引き継ぎを行う(指導要録・引き継ぎ等)。



学校のねらい

- ・保育参観や事例検討等を通して幼児期の学びについて知る(理解を深める)。
- ・遊びを通じた学びについて知る(実際に見て知る)。
- ・学びの形態(壁面制作や保育環境)を知る。
- ・発達段階に応じた活動や援助の在り方を知る。
- ・引き継ぎを行い、就学時の指導・支援に見通しをもつ。

「カリキュラムでつなぐ」

交流などで見直した活動を教育課程に位置づけ、全教職員で共有することが大切です。実践後に振り返ることが教育課程の接続になります。子どもの実態に合わせながら、その都度改善を図り、活動を充実させていきましょう。

園のねらい

- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手がかりとしながら、幼児の得意なところや更に伸ばしたいところを見極め、個々に応じた関わりをしたり、より自立的・協同的な活動を促したりする。
- ・意図的・計画的な環境の構成に基づいた総合的な指導の中で、バランスよく「見方・考え方」や資質・能力を育んでいく。



学校のねらい

- ・生活科を中心としたスタートカリキュラムの中で、合科的・関連的な指導も含め、子どもの生活の流れの中で、幼児期の終わりまでに育った力が発揮できるような工夫を行う。
- ・幼児期に総合的に育まれた「見方・考え方」や資質・能力を、徐々に各教科等の特質に応じた学びにつなげる。

「保護者との連携でつなぐ」

就学に向けては、子ども同様、保護者も大きな期待と共に不安を抱えています。子どもの育ちを支えるためにはその不安を解消することが大切です。園・学校が連携し、保護者を小学校につなぐ機会をもち、スムーズに学校生活をスタートさせましょう。小学校生活を見据えた子どもの育ちを共に支えられる工夫をしましょう。

園のねらい

- ・小学校に向けて身につけて欲しい生活習慣について伝え、家庭の協力を促す(学校から)。
- ・通信などを通して、小学校の様子を知らせる(園が保護者へ)。
- ・園での様子を日々伝え、就学に向けて変化してくる幼児の姿を丁寧に伝える(園から保護者へ)。
- ・就学に向けての相談をしたり、学校と情報を共有したりする。



学校のねらい

- ・入学当初の不安について、保護者の思いを十分に聞き取る。
- ・幼・保の教職員から子どもや保護者の様子を聞き取り、個に応じた対応ができるように引き継ぐ。
- ・懇談会等で保護者と学習内容を共有し、家庭と連携した家庭学習の充実を図る。

園・小学校・中学校
<年間を通した連携や「かかわり」> (例)

	1 学期	夏	2 学期	3 学期
しごとでもつなぐ	1・6年 ○1年生の手伝い ・始業前・支度・遊び ・給食・清掃 等 ○ペア活動 1・2年 ○生活科での交流 ・学校探検 小 ○「1年生を迎える会」 園 ○小学校の運動会参加・見学 ○小学校のプールで水遊び活動	うらやす園・小・中連携の日	園・小・中 ○合同引き渡し避難訓練 ○作品交流 園 ○小学校の児童会活動 「お祭り」への参加・見学 ○小学校の校庭や体育館を使って運動会の実施 ○小学校を使って避難訓練 園・5年 ○遊びの交流 園・6年 ○園での職場見学 園・中 (家庭科) ○園での職場体験 ○園の交流活動	園・5年 ○小学校の学校探検 ・授業や給食の見学 園 ○小学校の校庭を使って「凧揚げ」遊び ○小学校の図書室利用
教職員でもつなぐ	◆情報交換 (入学後の様子) ◆授業・保育参観 (※) 小 評議員会議 園 学校関係者評価委員会議		◆授業・保育参観 (※) ◆評議員会議 園 学校関係者評価委員会議	小 保護者会等に参加 (「入学」に向けての説明会 他) ◆授業・保育参観 (※) ◆情報交換 (入学式前の様子) ◆評議員会議 園 学校関係者評価委員会議

※授業参観は、教育委員会訪問（「学校訪問」「計画訪問」）の他、参観週間を設けている場合があります。
 ※園とは、「幼稚園・認定こども園・保育園」を表します。小及び学年表示は小学校を、中は中学校を表します。（上表は一例ですので参考にしてください。）

本市の取組

- 平成14年度 「幼小連携に関する調査研究」開始
 - 平成17年度 「小中連携教育検討委員会」発足
 - 平成20～22年度 「幼保小中連携教育協議会」実践報告
 (舞浜小学校・舞浜幼稚園) (入船南小学校・入船南幼稚園・入船保育園)
 - 平成22年度 「浦安市教育ビジョン策定」
 - 平成23～25年度 「幼保小連携教育協議会」実践報告
 (日の出小学校・日の出南小学校・日の出幼稚園・日の出保育園)
 - 平成26年度 全市での「幼保小中連携の日」を設定
 - 平成27年度 「改訂 浦安市教育ビジョン」後期5か年計画 策定
 - 平成28年度 「浦安市幼・保・小連携アプローチカリキュラム・スタートカリキュラム」作成
 - 令和2年度 「浦安市学校教育推進計画(前期)」策定(「幼保小中連携」から「園小中連携」に)
 - 令和3年度 「浦安市園・小連携5歳児の学びのカリキュラム・スタートカリキュラム」作成
- ※千葉県教育委員会から平成31年3月に接続のカリキュラム千葉県モデル「5歳児の学びのカリキュラムスタートカリキュラム」が発行されました。
 県との整合性を図り、浦安市では「5歳児の学びのカリキュラム・スタートカリキュラム」と称します。